



富岡製糸場総合研究センターだより

No. 14

(2022年4月発行)

富岡製糸場をもっと楽しむための豆知識をお届けします！

不思議な男子寄宿舍

検査人館と女工館の間に位置する男子寄宿舍は見学コースから見上げると総2階建てに見えますが、実は3階建ての建物です。

2005（平成17）年に富岡市教育委員会が実施した建造物群調査によると男子寄宿舍は大正ごろの建築とされています。6畳間から10畳間までの計12室があり、男性の独身社員がここで暮らしていました。

男子寄宿舍の1階と3階には検査人館及び女工館の1階と2階をつなぐ渡り廊下が設けられていますが、3階の廊下は屋根裏にあるため2階建てのような外観となっています。一方、男子寄宿舍の2階には隣接の建物から直接入ることができないという複雑な構造になっています。

1945（昭和20）年に藤本^{じつや}實也が記した『原^{さんけい}三溪翁伝』には、原合名会社が1915（大正4）年2月に現在の栃木県宇都宮市にあった^{おおしま}大嶮製糸所を「閉鎖して建物機械全部は富岡製糸所内へ移した」と記されています。

建造物群調査の際、男子寄宿舍の屋根裏に「上州富岡原富岡製糸所行大嶮製糸所」と読み取れる墨書があることが確認されています。このことから男子寄宿舍に使用されている材木の一部は大嶮製糸所の建物で使用していたものを転用しているのかもしれません。

◆ 発行 ◆

富岡市世界遺産観光部 富岡製糸場総合研究センター

